

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025年 3月 7日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	小林知奈

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、兵庫県丹波篠山
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
丹波篠山実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2025年 2月 24日 ~ 2025年 2月 25日 (2日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
里地里山問題研究所(さともん)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
<p>PWS 主催の丹波篠山実習に参加した。本実習の主な目的は、獣害に苦しむ地域において人と野生動物の共存を目指すさともんの活動と地域の実態を勉強させていただくことであった。</p> <p>【丹波篠山の実情】 背景: 大学で学ぶ農業への被害額といった数字に表れる被害のみならず、生活圏への侵入や個人の田畑への侵入など、地域レベルの獣害に苦しめられている。これらの対策として電気柵や防護柵の設置が政府から支援されているものの、知識不足・人手不足により有効な使用方法やメンテナンスが行われていなかった。</p> <p>さともんの存在: 地域のコミュニティに働きかけながら、地域外に住んではいるが地域の活動に関わる「関係人口」を増やすことで、有効な対策を持続させている。地域と行政の間にあったギャップをさともんがつなぐことで、三位一体の協力体制を確立している。獣害を減らしていくことで、地域の将来を明るくし、さらにそれが新規移住者を後押しすることで、さらに獣害対策も推進されていく…というポジティブな循環を作り、単に獣害をネガティブなものとして敵視するのではなく、むしろ地域活性の歯車としている。</p> <p>現在の対策: 全動物への対策として、市内の要所を防護柵で囲い、動物のアクセスする経路を減らすことで、捕獲管理を簡単にしている。また、アクセスポイントに近い地域に重点的に電気柵を推進することで被害が生じにくいように工夫している。サルについては、出没ポイントの日常的な調査やサル追い払い隊による煙花を用いた追い払いによって、地域住民の早期対策を可能にするとともに、生活圏への侵入を軽減している。また、関係人口を増やすべく、地域の農業体験や祭り、さらに獣害対策の一環である防護柵の見回りもイベント化し、これらを外部に発信している。</p> <p>【実習で学んだこと・印象に残ったこと】 自分が農学部で学んだ獣害にかんする情報は、あくまで行政側の数字で判断する範囲のものであり、地域の実情はそれとかけ離れていたことが強く印象に残った。電気柵など強力な対策方法が確立されているのなら問題はその支援金の不足なのでは、などぼんやりと考えていたが、実際にはそもそもその強力な対策方法の有効かつ持続可能な運用が難しいということが課題であった。これに関し、さともんの方からは、「解決したいのであれば研究サイドではなく実際に物事を変える地域レベルに行く必要を感じた」というお話があり、アカデミア側にいる自らの立場は何ができるのか改めて考え直すきっかけになった。これらは人々の生活を実際に目の当たりにしないとわからないことだと感じた。</p> <p>また、実際に、生活圏近くに来ているサルを見ることができた。地域住民の方が花火らしきもので大きな音を鳴らし追い払おうとされていたが、サルはあまり動じていなかったことが印象に残った。ある程度強く出なければあちらもどンドン人間をなめてしまうのだ、ということを感じた。こうなると煙花といった少々強い道具を使い、かつ使うタイミングを良く考えて対策を進めていく必要があり、マンパワーが重要になると感じた。このような動物の行動について、サルの慣れや対策効果を数字として可視化する…といったことは、研究者サイドからできる協力の形の一つだと感じた。</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

最後に、地域の魅力を感じた。日本家屋らしい建物が多く残っており、自然豊かで食べ物も大変おいしかった。このような魅力を知ることは、その地域に感心を持つことにつながり、ひいては関係人口の増加につながる。実際に足を運ぶことは、上述のような現実を知るために必要ではあるが、純粹に自分の視野を広げることにつながり、それが地域のためになることもあると思うので、今後も積極的にこのような実習に参加したいと思った。



図 1



図 2



図 3

図 1: 人里に降りてきたサル

図 2: このレーダーを配布し、サルの所在地を日常的に把握することで、住民の対策を促進している

図 3: 宿泊させていただいた家。昔ながらの造りで素敵

### 6. その他 (特記事項など)